

「愛するということはどういうことか？」

2016年9月17日(土)
 新宿文化センター第2会議室
 参加：29名
 司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・初参加者9名を含む総勢29名で、主に、私達が愛するときその対象の人の何（誰）を愛しているのか、私達や愛する人にはその特質以外に残るもの（コア）があるのか、という2つについて考え、対話を深めた。

2. 対話：

(0) 問いの提起

- ▶ 進行役より思考実験『愛する人の身代わり』*1)を紹介し、あなたが愛する人「真理（男性名：まこと／女性名：まり）」が殺され（死に）、そのオリジナルとあらゆる点でまったく同じコピーがすぐ現れたら、①死を悲しむか？②コピーを同じように愛するか？の2点を問題提起した。

*1) 「中学生からの対話する哲学教室」－『“愛”とは何か』より

☆ 以降、下記(1)～(3)は、スタッフのみ、参加者第1グループ、参加者第2グループで二重円法により対話した：

(1) 思考実験：「愛する人の身代わり」について

- ・愛していたオリジナルとコピーは同一性が（同じ人格で）あるのかによって考え方が異なると思う。
→「狂った魔法使いが殺し」とあり、オリジナルは死に、コピーが作られたので、同一性は（同じ人格では）ないと考えることにする。
- ▶ 一般参加者2グループそれぞれに意見を聞くと以下の通りであった：
 - ・問い①：Yes：10名／7名，No：0名／4名，？：3名／1名，
 - ・問い②：Yes：6名／8名，No：4名／2名，？：2名／4名
- ・第1グループの対話で「オリジナルが殺された」との設定が悪いのではないかと疑問が出たため、「オリジナルが消えた」という設定に修正して聞き直したが、賛否の人数に変化はなかった。

(2) 思考実験に対するそれぞれの代表的な意見

- ・問い①でYesの人から：オリジナルとコピーでは違う。オリジナルは死んでしまっていないのだから、（コピーの存在とは別認識として）その喪失を深く感じて悲しむ。
- ・問い①でNoの人から：コピーがオリジナルとあらゆる点で同じなら、オリジナルの喪失を感じることなく、悲しまない。
- ・問い②でYesの人から：「同じように」という点に引っかかる。オリジナルとコピーでは何かが違う。その違いは判然としないが、存在そのものかもしれないし、二人の関係性にあるのかもしれない。
- ・問い②でNoの人から：どうしたってオリジナルはもう死んでしまって帰らない。この際だから「真理」への執着を捨て全く新しい愛を見つけたいと思う。
- ・問い②でNoの人から：オリジナルは既に死んでしまったが、その気持ちを自分と立場を入れ替え仮想すると、「自分が別人格のコピーを愛することはオリジナルの人格が嫌であろう」と思えるので、同じようには愛さない。
→それは本当か。オリジナルの観点からは、オリジナルと全く別の新しい人格を自分が愛するよりも、あらゆる点で同じコピーを愛する方が嬉しいということは考えられないか。

(3) オリジナルとコピーとでは何が違うのか？その1

- ・オリジナルが殺された（死んだ）時点の前後では、自分の気持ちに断絶が生まれて、その対象に接する態度が変わってしまうと思う。
- ・その違いは、存在そのものかもしれないし、二人の関係性に刻まれた何か（痕跡）かもしれない。
- ・例えば自分が履いている靴を想像してみると、色々な傷や痕跡が残っているからこそ愛着が湧く。それは自分と靴との関係性に依存している。同じように、オリジナルと自分の間にも特定の関係性があつたはずであり、それはコピーとの間にはないからではないか。
- ・愛する二人の間には、歴史が必要である。この場合、オリジナルと自分との間には二人の共通する歴史があるが、コピーとの間に共通の歴史があると言えるのだろうか。
→経験とは異なる誤った記憶を持つ例もあり、記憶と経験は必ずしも一致しない。コピーはオリジナルの記憶を完全に受け継いでいるが、共通の記憶を持っているということが、必ずしも共通の経験を持っているということにはならない。よって、コピーが自分と同じ共通の経験を持っているとは言えない。

☆ 下記(4)に至って、参加者全員で対話した：

(4) オリジナルとコピーとでは何が違うのか？その2

- ▶ オリジナルとコピーの違いをさらに深めるため、ここで進行から次のような思考実験*2)を提起した。
 - ・自分について知っている様々な特質（自分の生まれ、成長の諸段階、受けてきた教育、現在の勉強や仕事、人間関係、関心や野望、性質や才能）が私から欠けたら、私は私ではなくなるのだろうか？
- *2) 「倫理－愛の構造」－『わたし・われわれ・愛～知られざる自己自身』より
- ・そういう各特質が欠けたら何も残らない（タマネギ構造）のではないか。
- ・そういう各特質を欠いても残るものがコアと呼べるはずで、それがコア（ピーマン構造）のではないか。
- ・コアがあるとすれば、それはプラトンの言うイデアではないか。
- ・いやそういうコアがあるとは思えず、全てのフィーチャーの集合体を愛しているのではないか。
- ・コアとそれ以外の各特質（フィーチャー）とは何が違うのか。思考能力等はどちらに入るのか。
- ・コアと各フィーチャーを前提すると考え辛くないか。例えば、私と（誰でもいい）彼が入れ替わることができたと想像したとき、意識（自我）のようなものだけが入れ替わると思える。それがコアであり、それ以外がフィーチャーということではないか。
→完全に入れ替わったら、自分が入れ替わったことに気付かない。だからコアはないのではないか。
→気づかないことは、コアがないことを必ずしも否定しない。入れ替わると想像できることは、何か意識のようなものだけが入れ替わると考えているはずだからである。

3. まとめ：

- ・進行の問題意識に沿って対話の中で出た発話を基に思考を掘り下げて行ったが、参加者の中には「愛することはどういうことか？」の思考からずれを感じる方が少なからずおられた。次の愛をテーマにした機会に拾いたい。
- ・問いの提起者としては、コアなし（タマネギ構造）の概念やコアとフィーチャーの違いは何か等の指摘に、問題意識を深めることができたと思う。